

主要な取組の結果

概要

教育委員会では今日の教育課題を解決していくため、特に、集中的・横断的に進めていく必要のある取組を、本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の「第5章 重点的な取組み」で整理し、そのうち主なものを県の総合計画である「新かながわグランドデザイン実施計画」に位置付けて取り組んでいます。

「新かながわグランドデザイン実施計画」の「プロジェクト2 教育」において、思いやる力や自立して生き抜く力、社会に貢献する力を育成し、「日本社会に根差したウェルビーイング」の向上を図るとともに、教員不足への対応や県立学校の老朽化対策などを推進し、すべての児童・生徒が安心して快適に学べる環境づくりに取り組んでいます。

ここでは、プロジェクトの達成度を象徴的に表す指標と、実施した施策・事業の進捗状況や達成の度合いを測るためのK P I（重要業績評価指標）を点検し、主要な取組の結果を評価しています。

総括

A 思いやる力や自立して生き抜く力、社会に貢献する力を育成する学校教育

本構成施策では、学校教育における思いやる力・自立して生き抜く力・社会に貢献する力の育成を目的に、すべての子どもが、同じ場で、共に学び共に育つことをめざすインクルーシブ教育を推進するとともに、1人1台端末を活用した教育活動、国際社会で活躍するグローバル人材の育成などに取り組みました。

また、「子どもたちにとって最良な学習環境の検討」について、児童・生徒の資質・能力の育成に向け、より効果的な学習場面でICTを活用することができるよう、市町村教育委員会と協議を行いました。

B 安心して快適に学べる教育環境の整備

本構成施策では、すべての児童・生徒が安心して快適に学べる教育環境の整備を目的に、心理や福祉の専門人材と連携し、子どもたちが抱える困難に見える化するとともに、必要な支援につなげていく「かながわ子どもサポートドック」を推進しました。

また、教員が子どもたちと向き合う時間の確保や、教員の「働きやすさ」と「働きがい」の両立に向けて、市町村立学校働き方改革加速化補助金の交付や校務DXの推進等の教員の働き方改革の加速化に取り組みました。

さらに、「多様な学びを選択できる支援の実施」について、市町村に対する補助等により、政令市を除く市町村立小・中学校の校内教育支援センター設置率は、令和6年度の72.7%から3.7ポイント上昇し、令和7年度は76.4%となったほか、スクールカウンセラーを学びの多様化学校に配置し教育相談体制の強化を図るなど、児童・生徒の多様な学びの場を確保しました。

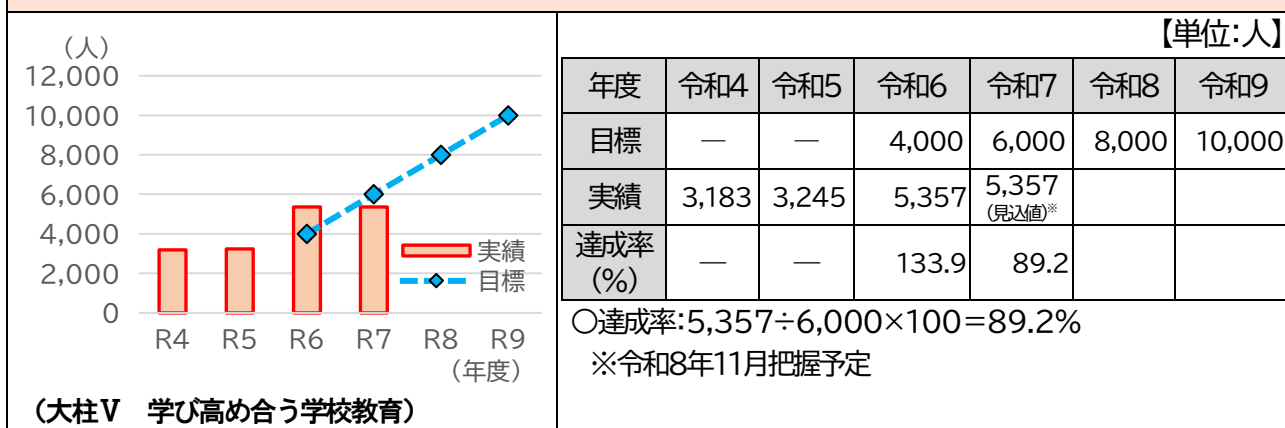
指標の動向

指標	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績	令和8年度 実績	令和9年度 目標値
「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思う生徒の割合（県立高校） （魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート調査）	85.3%	87.1%	87.5%	88.8%	—	90.0%
将来の夢や目標を持っている児童の割合（公立小学校）・生徒の割合（公立中学校） （文部科学省 全国学力・学習状況調査）		72.7%	73.3%	74.5%	—	75.0%
高校生活を振り返って満足した生徒の割合（県立高校） （魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート調査）	85.7%	90.3%	91.5%	91.3%	—	90.0%
学校に行くことが楽しいと思う児童の割合（公立小学校）・生徒の割合（公立中学校） （文部科学省 全国学力・学習状況調査）		83.9%	84.7%	86.8%	—	90.0%

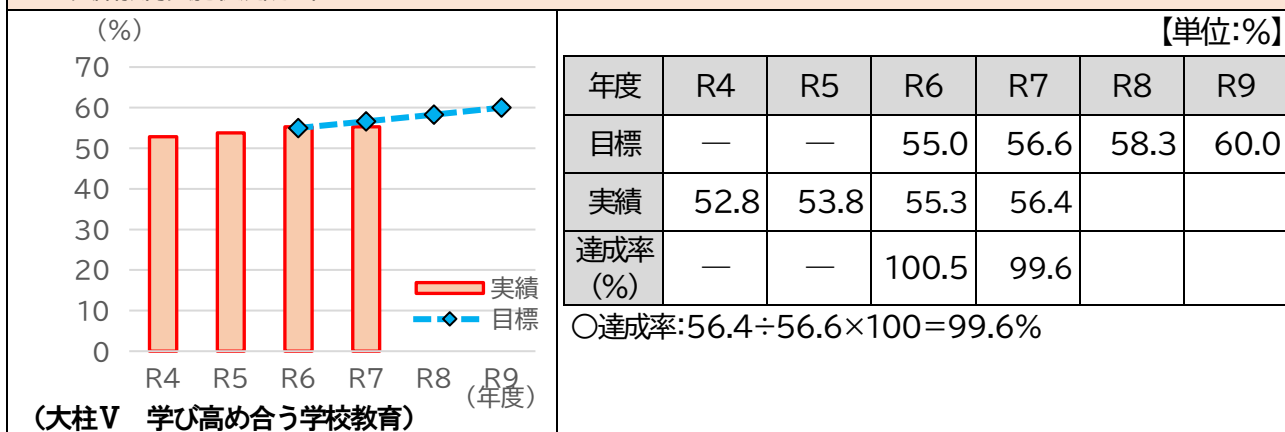
KPIの達成状況

A 思いやる力や自立して生き抜く力、社会に貢献する力を育成する学校教育

インターンシップ体験生徒数(県立高校)(国立教育政策研究所 インターンシップ実施状況等調査)



CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(県立高校3年生)(文部科学省 公立高等学校における英語教育実施状況調査)



「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことが勉強の役に立つ」と思う割合(公立小・中学校)
(文部科学省 全国学力・学習状況調査)

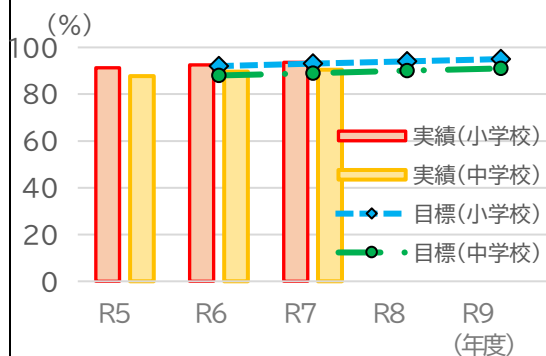
【単位:%】

年度	R5	R6	R7	R8	R9
目標	—	95.0	95.0	95.0	95.0
実績	94.8	※	※		
達成率 (%)	—	—	—		

※「文部科学省 令和6年度全国学力・学習状況調査」より、当該質問項目が設定されていないため、把握不可

「人が困っているときは、進んで助けています」と思う児童の割合(公立小学校)・生徒の割合(公立中学校)
(文部科学省 全国学力・学習状況調査)

【単位:%】



(大柱Ⅱ 共生社会づくりにかかわる人づくり)

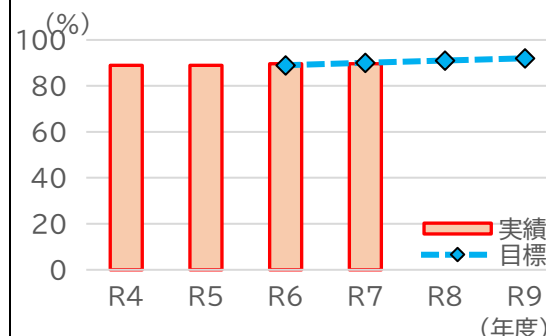
年度	R5	R6	R7	R8	R9
目標	<小> —	92.0	93.0	94.0	95.0
	<中> —	88.0	89.0	90.0	91.0
実績	<小> 91.3	92.5	93.6		
	<中> 87.7	89.6	90.4		
達成率 (%)	<小> —	100.5	100.6		
	<中> —	101.8	101.5		

○達成率:<小学校> $93.6 \div 93.0 \times 100 = 100.6\%$

<中学校> $90.4 \div 89.0 \times 100 = 101.5\%$

「中学生の時よりも人を思う気持ちが身についた」と思う生徒の割合(県立高校)(魅力と特色ある県立高校
づくりについてのアンケート調査)

【単位:%】



(大柱Ⅱ 共生社会づくりにかかわる人づくり)

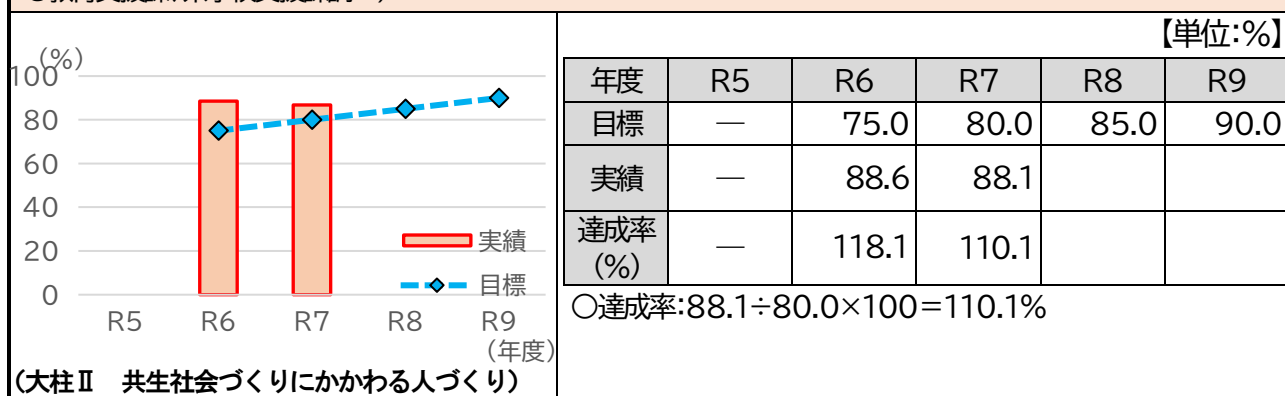
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9
目標	—	—	89.0	90.0	91.0	92.0
実績	88.9	89.0	89.6	91.1		
達成率 (%)	—	—	100.6	101.2		

○達成率: $91.1 \div 90.0 \times 100 = 101.2\%$

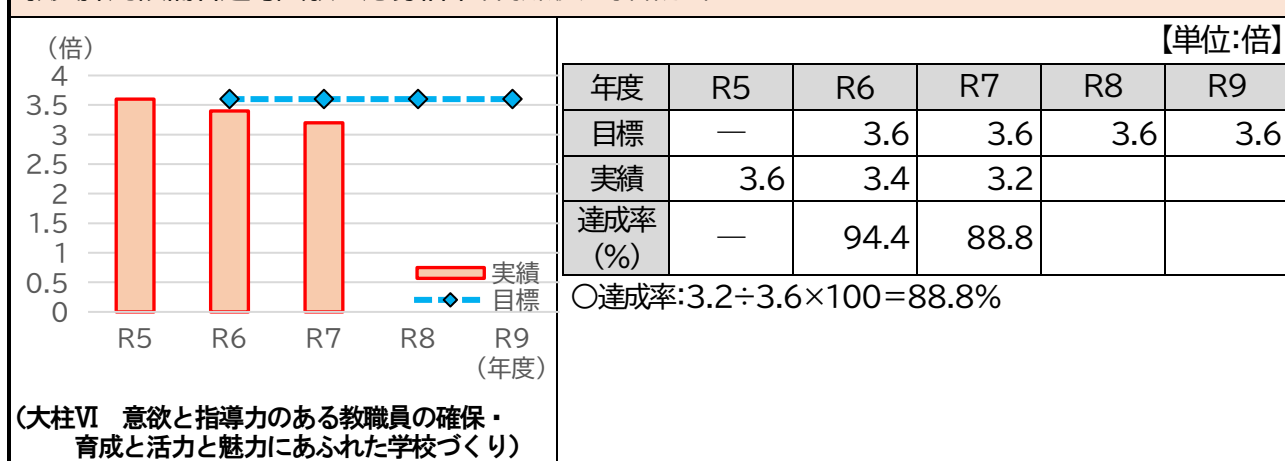
※ K P I の目標値は、新かながわグランドデザイン実施計画策定時の財政状況や活用可能な資源なども考慮し、達成可能と考えられる最大限の水準を設定したものです。

B 安心して快適に学べる教育環境の整備

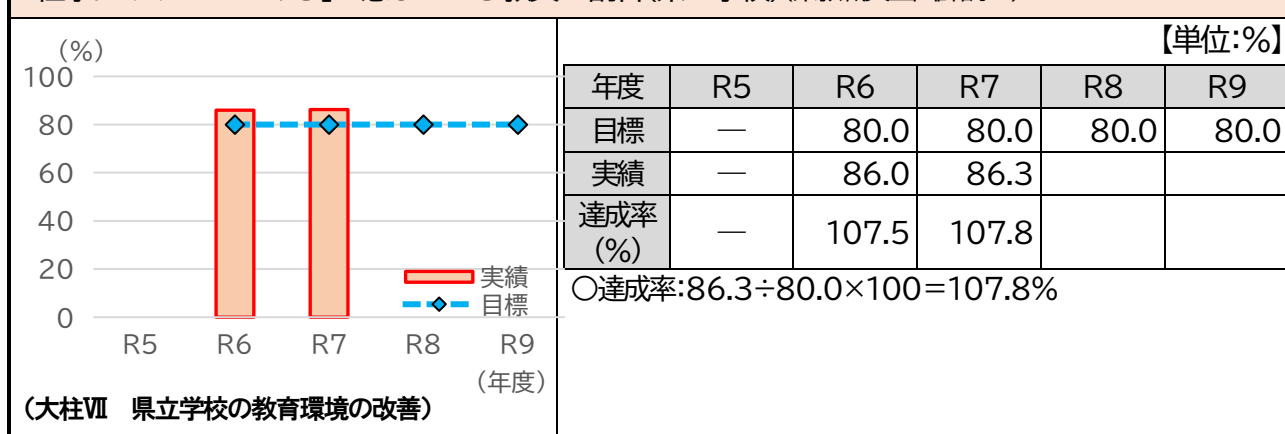
「かながわ子どもサポートドック」のしくみにより児童・生徒が専門的な支援につながった割合(県子ども教育支援課、県学校支援課調べ)



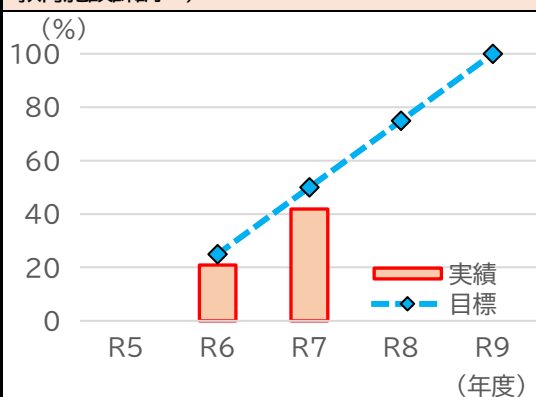
教員採用候補者選考試験の応募倍率(県教職員人事課調べ)



「仕事にやりがいがある」と感じている教員の割合(県立学校)(県教職員企画課調べ)



新まなびや計画第3期における老朽化対策(計画修繕)の実施割合(県立学校)(計画期間中の累計)(県教育施設課調べ)



(大柱Ⅶ 県立学校の教育環境の改善)

【単位:%】

年度	R5	R6	R7	R8	R9
目標	—	25.0	50.0	75.0	100.0
実績	—	20.9	45.0		
達成率 (%)	—	83.6	90.0		

○達成率: $(45.0 - 0) \div (50.0 - 0) \times 100 = 90.0\%$

【KPI達成率の計算方法】

数値設定が【累計】、【総数】

達成率: $(\text{令和7年度実績値} - \text{基準年度(左端年度)の実績値}) \div (\text{令和7年度目標値} - \text{基準年度(左端年度)の実績値}) \times 100$

有識者の意見

【全体を通じて】

本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の「第5章 重点的な取組み」で整理された集中的・横断的に進めていく必要のある取組について、「教育の質の確保」と「学びの充実」に重点を置き着実に取り組んでいる。さらに県の総合計画である「新かながわグランドデザイン実施計画」の「プロジェクト2 教育」に沿って、思いやる力や自立して生き抜く力、社会に貢献する力を育成し、変化の激しい社会に適応できる柔軟で自立した人材の育成をめざした様々な取組を進めていることは評価できる。

また、その成果指標として、KPI（重要業績評価指標）を用いて経年的に数値化していることで、教育委員会が取り組んでいる主要な取組の目標や達成度が目に見える形で比較できている。「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持てたと思う生徒の割合が年々上昇しており、「かながわ教育ビジョン」がめざす、自己肯定感を基盤とした「思いやる力」・「たくましく生きる力」・「社会とかかわる力」の育成が図られていると言える。そのほか、将来の夢や目標を持っている児童の割合も着実に増えており、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため学校DXの推進などこれまで重点的に行ってきた取組のより一層の充実を期待する。

【具体的な取組のKPIについて】

A 思いやる力や自立して生き抜く力、社会に貢献する力を育成する学校教育

CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（県立高校3年生）が達成率99.6%であったものの実績で56.4%と年々増加しており、生徒の英語資格・検定試験の受験料の補助や全県立高校等にALTを配置するなどの実践的な取組が生徒の意欲を高め、英語力の向上につながっていると理解できる。また、「人が困っているときは、進んで助けています」と思う児童の割合が小学校93.6%、中学校90.4%と目標を上回るとともに、年々増加している。「いのちの授業」やいじめ・暴力行為防止、インクルーシブ教育の推進など共生社会づくりにかかわる人づくりをめざした取組の成果と言える。これからも様々な課題を整理し継続的で発展的な取組を期待する。

B 安心して快適に学べる教育環境の整備

様々な困難を抱える子どもを効果的に把握して専門的な支援につなげる「かながわ子どもサポートドック」の達成率が目標値に対して110.1%であり、学校におけるスクールカウンセラーやスクールソーシ

ャルワーカー等の専門職との連携が適切な支援に確実につながっていると言える。ただ、昨年度との比較では達成率は下がっており、より一層の充実に向けて取り組んでほしい。教職員の確保、育成については、教員採用候補者選考試験の応募倍率が年々減少し課題となっているが、「仕事にやりがいがある」と感じている教員の割合が少しではあるが着実に増えており、教員の働き方改革を加速するなど今後の取組に期待したい。また、新まなびや計画の第3期における老朽化対策（計画修繕）の実施割合については、令和7年度の達成率は昨年より大幅に増えて 90.0%であり、安心して快適に学べる教育環境の整備に向けて着実に取り組んでいると評価できる。